

令和7年
12月23日

病害虫発生予報 1月号

茨城県病害虫防除所

農薬保管庫や防除器具の点検・整備を行いましょう！

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：ハダニ類	1
促成ピーマン：うどんこ病	1
促成トマト：黄化葉巻病（タバココナジラミ）	2
促成キュウリ：うどんこ病	2

【その他の病害虫】

イチゴ、促成ピーマン、促成トマト	3
------------------	---

【防除所レポート】

令和7年におけるトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺状況について	4
令和8年版果樹病害虫参考防除例の記載薬剤変更について	5
○サツマイモ基腐病の防除対策	6

II. 今月の気象予報

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの

「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。Tel :0299-45-8200

ホームページでは病害虫・フェロモントラップ・農薬関連情報をご覧いただけます。

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>



※病害虫の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病害虫の防除や農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病害虫防除所等の指導機関にお問い合わせください。

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、寄生葉率（本年値 27.3%、平年値 14.5%）は平年より高く、被害葉率（本年値 25.9%、平年値 11.7%）は平年よりやや高い～高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速く、多発すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 天敵導入圃場では、ハダニ類や天敵の生息状況等をよく観察し、必要に応じて天敵の追加放飼を検討する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

（令和7年12月23日発表 病害虫速報No.7参照）

促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、発病度*（本年値 7.3、平年値 1.8）は平年よりやや高い～高く、発生地点率（本年値 50%、平年値 38%）は平年よりやや高い。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤感受性の低下を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成トマト

1. 黄化葉巻病（タバココナジラミ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、発病株率（本年値 2.3%、平年値 0.2%）、発生地点率（本年値 43%、平年値 7%）ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病株は伝染源となるため、速やかに抜き取り、適切に処分する。
- ② タバココナジラミは多発すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ③ 媒介虫であるタバココナジラミの施設内への侵入および施設外への飛び出しを防ぐため、開口部に 0.4mm 目合い以下の防虫ネットを設置する。施設ビニルや防虫ネットに破損がある場合は必ず補修する。
- ④ 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、タバココナジラミ成虫を捕殺する。
- ⑤ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。
- ⑥ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、タバココナジラミの薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑦ 黄化葉巻病耐病性品種は、ウイルスに感染しても発病は抑制されるが、感染株は本病の伝染源になるため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。

促成キュウリ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、発病葉率（本年値 2.0%、平年値 0.2%）、発生地点率（本年値 33%、平年値 10%）ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤感受性の低下を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況および注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	12月中旬現在、平年並の発生である。
	アブラムシ類	発生量：平年並 ～やや多い	12月中旬現在、平年並～やや多い発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並	12月中旬現在、平年並の発生である。
促成ピーマン	アブラムシ類	発生量：やや多い	12月中旬現在、平年よりやや多い発生である。
	ハダニ類		
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや少ない	12月中旬現在、平年並～やや少ない発生である。
促成トマト	黄化病	発生量：やや多い	12月中旬現在、平年よりやや多い発生である。 媒介虫であるコナジラミ類の防除を徹底する。

令和7年におけるトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺状況について

トマトキバガは、主にナス科植物を好み、トマト等を食害する侵入害虫です。

茨城県では、令和4年から県内4地点にフェロモントラップを設置し調査しています。今回は、令和7年におけるフェロモントラップへのトマトキバガ雄成虫の誘殺状況についてとりまとめたので参考にしてください。

[本年の発生経過]

- ① フェロモントラップへの誘殺時期は過去2か年より早い4月上旬から確認され、5月中旬以降、継続的に誘殺された。
- ② 前年と同様に、9月から誘殺数が増加し、10月に誘殺ピークがみられた。11月第6半旬にも、地点あたり0～1.4頭の誘殺が確認された。
- ③ 4地点の総誘殺数（4月～11月）は、403頭で過去2か年より多かった。
〔令和6年（4月～11月）：180頭、令和5年（6月～11月）：5頭〕

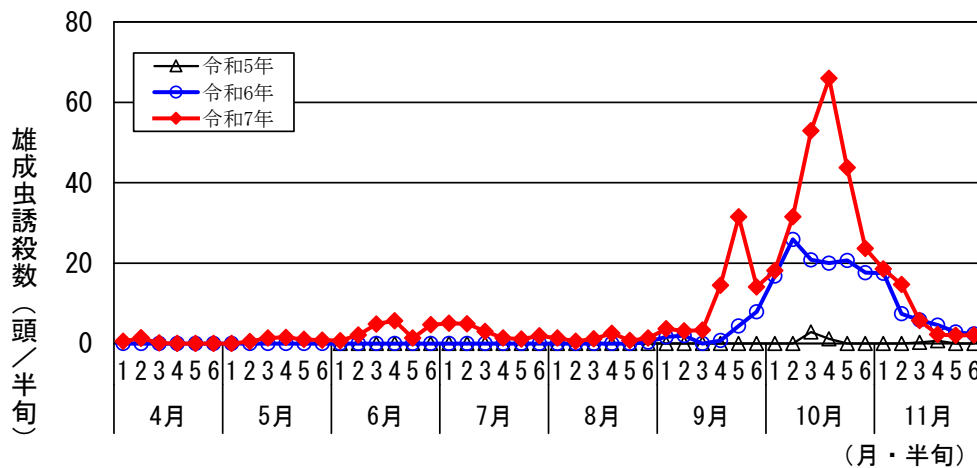


図 フェロモントラップへのトマトキバガ雄成虫の誘殺状況（県内4地点合計）

[今後に向けた対応]

- ・県内では農作物の被害は確認されていないが、近隣県では報告されているため、県内においても今後の発生に注意する。
- ・トマトキバガ幼虫による被害葉はハモグリバエ類幼虫による被害葉に似ているので、トマトキバガによる被害の特徴を確認し（令和7年10月22日発表「病虫害速報 No.6」参照）、被害を見落とさないよう注意する。
- ・トマトキバガの発生や被害が疑われた場合は、最寄りの農業改良普及センター、病虫害防除所に連絡する。
- ・コナジラミ類の防除対策を兼ね、施設内への侵入および施設外への飛び出しを防ぐため、開口部に0.4mm目合いの防虫ネットを設置する。施設ビニルや防虫ネットに破損がある場合は必ず補修する。
- ・降雪地域において、冬期間もビニル被覆を行う施設内では越冬の可能性があることが報告されている。また、幼虫はマルチなどの資材の隙間に入り込み蛹化する性質があることから、本虫が定着した施設内では根絶することが困難となることが懸念されるため、早期発見、早期防除に努める。

令和 8 年版果樹病害虫参考防除例の記載薬剤変更について

令和 8 年版防除例の主な変更点をまとめました。変更理由は以下のとおり。

表 果樹病害虫参考防除例の主な変更点（薬剤の追加・削除等）

令和 7 年版				→		令和 8 年版	
品目	時期・記載場所	薬剤名等	変更の種類			変更後	
露地赤ナシ 無袋	注意事項欄 (8月上旬)		追加			テルスターフロアブル	
露地巨峰	7月上旬	ホライズンフロアブル	変更			ミギワ20フロアブル	
雨よけ巨峰	大豆粒大期 (幼果期)					-	
露地巨峰		プロパティフロアブル	削除			-	
雨よけ巨峰						テルスターフロアブル	
カキ	注意事項欄 (9月上~下旬)	スカウトフロアブル	変更			ジマンダイセン水和剤	
クリ	注意事項欄					モスピラン顆粒水溶剤	
						-	
ウメ	落葉後	ラビキラー乳剤	削除			ベンレート水和剤	
リンゴ	発芽1週間前 (3月下旬)	ベフラン液剤25	変更			ベルコートフロアブル	
	8月下旬					テルスターフロアブル	
	注意事項欄 (7月下旬)						

※令和 8 年版の果樹病害虫参考防除例は、原則として令和 7 年10月 1 日現在の登録内容に基づいて作成しています。ただし、オキシラン水和剤の登録内容が令和 8 年 3 月に変更予定のため、露地赤ナシ無袋およびリンゴにおいて変更後の登録内容を記載しています。

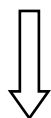
- 【露地赤ナシ無袋】追加：8月上旬シンクイムシ類対象のスカウトフロアブルが販売終了となるため、念のため代替剤としてテルスターフロアブルを注意事項欄に記載する。
- 【露地巨峰・雨よけ巨峰】変更：7月上旬(露地巨峰)・大豆粒大期(雨よけ巨峰)べと病・晩腐病対象のホライズンドライフロアブルについて、特に晩腐病の防除効果を高めるためミギワ20フロアブルに変更する。ミギワ20フロアブルは、べと病に登録がないので、晩腐病のみを対象とする。必要に応じて注意事項欄のべと病対象薬剤を参照して対応する。削除：注意事項欄大豆粒大期うどんこ病対象のプロパティフロアブルの販売が終了となったので削除する。
- 【カキ】変更：注意事項欄9月上旬カメムシ類対象のスカウトフロアブルが販売終了となるため、代替剤としてテルスターフロアブルに変更する。
- 【クリ】追加：実炭疽病対象に本欄記載のベンレート水和剤および注意事項欄に記載のベルコートフロアブルは、使用時期がともに収穫 14 日前までであり、防除の選択肢を増やすため使用時期が収穫 7 日前までのジマンダイセン水和剤を注意事項欄に追加する。追加：8月上旬～9月中旬モモノゴマダラノメイガ対象のエルサン乳剤について、防除の選択肢を広げるためモスピラン顆粒水溶剤を注意事項欄に追加記載する。
- 【ウメ】削除：落葉後コスカシバ対象のラビキラー乳剤が販売終了のため、削除する。
- 【リンゴ】変更：発芽1週間前腐らん病対象のベフラン液剤25が登録失効となるため、代替剤としてベンレート水和剤へ変更する。変更：8月下旬斑点病・褐斑病・輪紋病・すす点病・すす斑病対象のベフラン液剤25が登録失効となるため、代替剤としてベルコートフロアブルへ変更する。追加：7月下旬カメムシ類・シンクイムシ類・キンモンホソガ対象のスカウトフロアブルが販売終了となるため、代替剤としてテルスターフロアブルを注意事項欄に記載する。

サツマイモ基腐病の防除対策

排水対策をしっかり行い、圃場に水がたまらないようにしましょう！

[基腐病が圃場内でまん延するしくみ]

- ① 基腐病に感染した株の発病部位では、病原菌の胞子が大量に作られます。
- ② 病原菌の胞子は風雨や圃場の湛水により移動し、他の健全な株に感染します。



(そのため)

降雨後に水がたまりやすい圃場では、本病がまん延します。

◎基腐病は、感染してからでは被害を抑えることが難しい病気です。そのため、排水対策をしっかり行い、圃場に水がたまらないようにすることが重要です。

➡ サブソイラ等で耕盤を破碎し、圃場の地下排水を促進させましょう。

◎近年、集中豪雨が発生しやすくなっています。圃場の排水対策をしっかり行うことは、湿害対策にもつながります。

【次作に向けた準備】

(今やるべき対策)

- ・貯蔵中のイモは月に1回程度、異常がないか確認しましょう。

(まだ間に合う対策)

- ・基腐病菌は収穫後の残さ(イモ、葉や茎の残がい)で越冬し、翌年の発生源になります。耕起等により、圃場に残った残さの分解促進を図りましょう。

茨城県総合防除計画におけるサツマイモ基腐病の遵守事項

茨城県では、全国的に発生しているサツマイモ基腐病について、すべての農業者(家庭菜園を含む)の皆様に守っていただくルール(遵守事項)を定めました(令和5年4月1日に施行された改正植物防疫法に基づくものです)。

○遵守すべき事項

- ・県が実施するまん延防止のための調査に協力する。
- ・本病の発生を確認した場合には、関係機関へ連絡し、関係機関の指導の下、発病株を抜き取り、圃場(苗床を含む)外に持ち出す。
- ・本病発生圃場では、2年間、サツマイモを作付けしない(関係機関の指導の下、栽培管理する場合を除く)。
- ・本病発生圃場から種イモを採取しない。
- ・本病発生圃場では、発生の拡大が無いことを確認する。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 12月20日から1月19日)

気象庁(12月18日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	20	70
	降水量	関東甲信全域	10	40	50
	日照時間	関東甲信全域	50	30	20

[概要]

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 12月20日(土曜日)から12月26日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 12月27日(土曜日)から1月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率70%

<3週目から4週目の予報> 1月3日(土曜日)から1月16日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。